

大学生の力を活用した  
集落復興支援事業

針道九区の自然環境を活用した  
サテライトキャンパスづくり

東北文化学園大学

Reborn Café ポレポレ

## 1. 第1回集落調査(平成30年8月20日～21日)

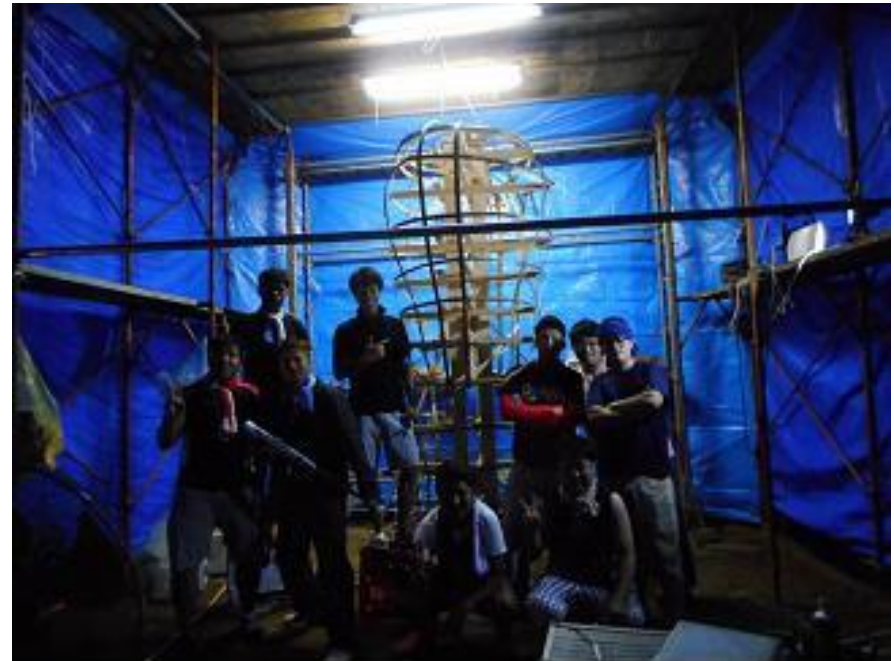
8月20日 (1) 二本松市役所東和支所で概況説明、質疑応答

(2) 視察:道の駅「ふくしま東和」、小手森城址(愛宕神社)、隠津島神社・三重塔(木幡)、稲栽培試験圃場(農工大)、今井公園、古民具資料館

(3) 住民との交流会 (4) 日程調整、調査打ち合わせ

(5) 史料・映像の紹介 (6) 後東若連の山車制作視察(写真①)

8月21日 (1) 東和支所管内概況説明② (2) 現地視察:夏無沼キャンプ場(猪棲息域)、香取神社(養蚕史跡)、放射性廃棄物処理施設・廃棄の現状、羽山(頂上からの眺望)、西谷地区(宮地ゼミ)、「島山」(阿武隈溪谷、カヌー競技場等)、堆肥センター(有機肥料製造所)、ふくしま農家のワイナリー(木幡地区)



## 2. 第2回集落調査（平成30年9月22日～23日）

9月22日

(1) 踏査（道の駅～針道～ 隠津島神社）

(2) 花づくり&交流

9月23日

(1) 踏査（民宿A～諏訪神社～民宿B）

(2) 今井公園で活動

公園の除草、レクリエーション、住民との交流



### 3. 第3回集落調査(平成30年10月7日)

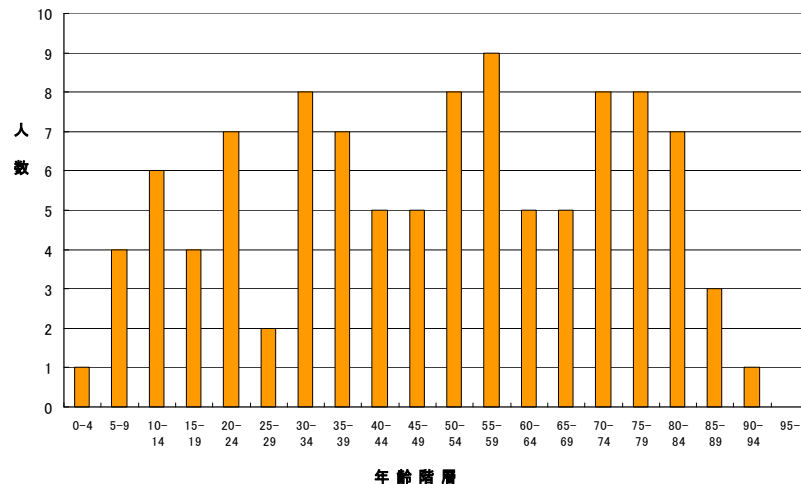
- (1) 諏訪神社祭礼の調査
- (2) 「針道あばれ山車」(写真)
- (3) 踏査(道の駅～山里の家～川俣～伊達～福島)



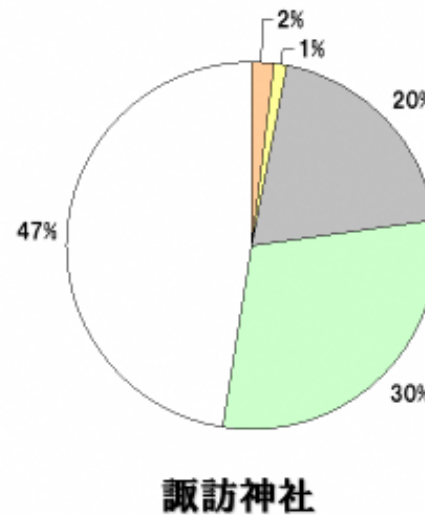
### 4. 第4回集落調査

- (1) 平成30年10月配布、11月回収
- (2) 12月～：集計・分析・考察

年齢階層別の住民数



諏訪神社は大切な存在だと思うか？



「諏訪神社は大切な存在だと思うか？」という質問に住民の約8割が肯定的回答を選択した。諏訪神社の例大祭で「あばれ山車」が盛大に催され、「後東若連」が山車の製作を担っているという事実はそれを実証するものであると考えられる。

「祭祀」という行事は、針道九区で暮らす人々の生活の中に根付いているように思われる。そのようなライフスタイルや価値観は、なぜ、どのように成立している(きた)のだろうか？

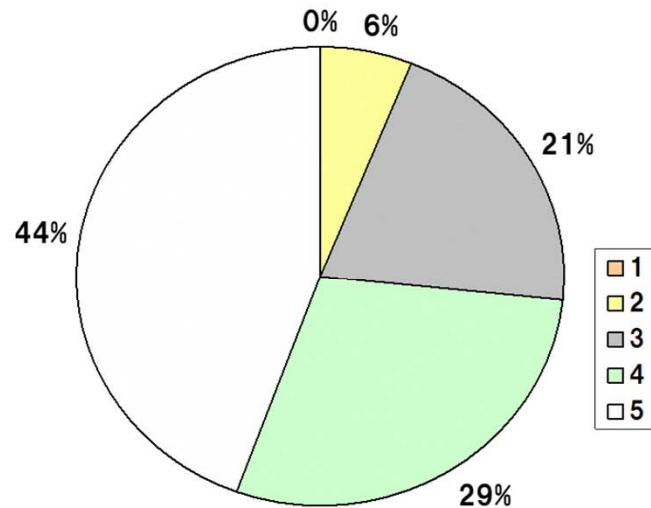
また、それは地域農業システムの持続性や自然環境の保全、あるいは、次世代への文化の継承や教育とどのように関連している(きた)のだろうか？その点にこそ、針道九区の持つ魅力(お宝)が潜んでいるのではないだろうか？

# 山車に載せるキャラクターへの関心と「今井公園」の環境教育的利用や「農的自然博物館」設置計画の協力意向には弱い正の相関があった！

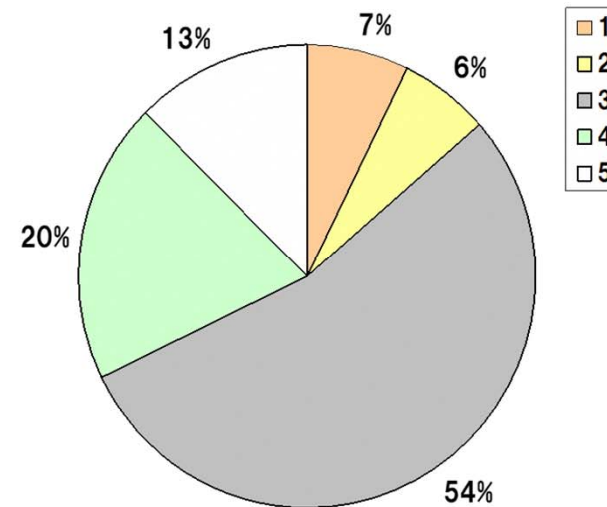


## それはなぜか？

針道あばれ山車のキャラクターに関心があるか？



農的自然博物館をつくる計画に協力したいか？



## 福島県のイノシシ被害

2011年の原発事故 ⇒ 福島県のイノシシによる農作物被害は倍増  
福島県の被害は東北6県中、被害面積は1位、量と金額は2位

☞ 130ha (43.9%), 569t (38.6%), 6,453 万円 (39.3%)

出典「全国の野生鳥獣による農作物被害状況について(平成27年度)」

### ○ 針道はイノシシ被害の中心地！

被害は針道の主作物の水稻収穫期に集中

⇒ 二本松市は平成26年度「鳥獣被害対策実地隊」を組織

しかし、高齢化で隊員は減少傾向 ☞ イノシシは「越境難民」？

**電気柵に補助金！** ⇒ 26年度 127戸 32ha, 27年度 101戸 25ha

**鳥獣被害防止総合対策交付金** ⇒ 25集落、受益戸数 92戸 178ha に設置

**中山間地域直接支払交付金** ⇒ 電気柵の設置・管理(集落ぐるみ)

**イノシシの繁殖力を考慮すれば、総合的な被害防止対策が必要！**

⇒ 捕獲し、防御するだけよいのだろうか？

⇒ イノシシの生態を知り、上手な付き合い方を学ぶ教育が必要では？

## 放射能汚染地区の植物、木の実、小動物を食べるイノシシ

- ⇒ 基準値を超える セシウム137 の検出！
- ⇒ 捕獲しても廃棄せざるをえない（廃棄処理は非常に厄介！）
- ⇒ 仮に安全性が確認されても販売は難しい！
- ⇔ 集落の活性化に結びつけられないか？

福井県越前町の「マウントオブミュージック」(野外フェス)

- ⇔ 「音」による対策をイベントによる活性化に結びつけた！

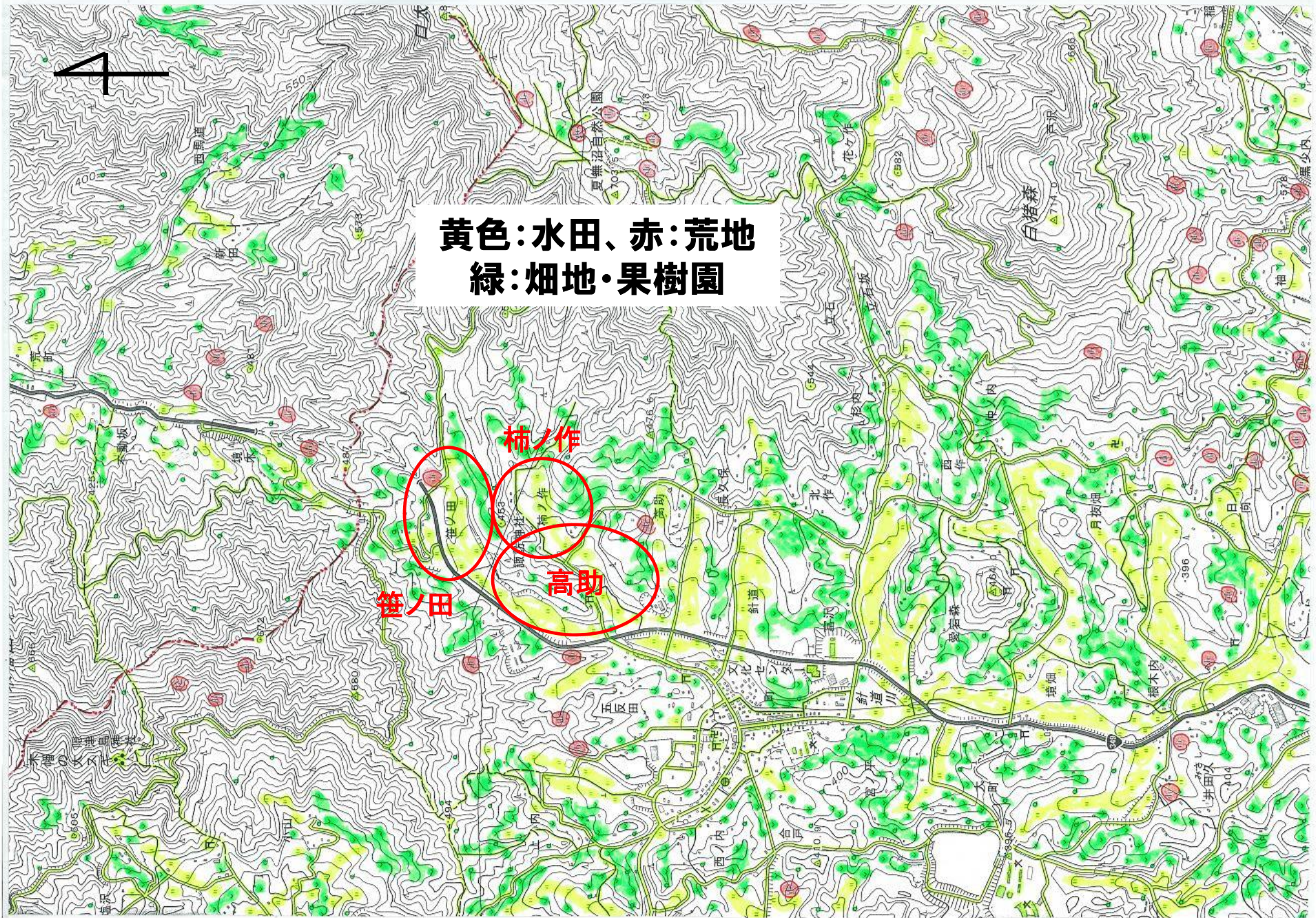
## 電気柵の設置・管理は基本

- ⇒ 応用編としてイノシシ保護区(生息環境)づくり
- ⇒ イノシシが里に近づく原因を減らす
  - ① 餌場づくり: ナラやクヌギの森(「ドングリ」)
  - ② 保養所づくり: 奥山に泥浴び用の「ぬた場」



食肉には使えない！ ⇒ 「生物多様性」視点からの「共存」戦略

- ⇒ それを針道の魅力として発信！
- ⇒ 観光・交流事業での集客力の向上！



黄色:水田、赤:荒地  
緑:畑地・果樹園

笹ノ田  
柿ノ作  
高助

平成27年8月調整「国土地理院2万5千分の1地形図(川俣)」を拡大コピー(250%)





京都御所に隣接する「護王神社」 狛犬ならぬ狛猪が鎮座する。  
祭神は猛威をふるう道鏡に敢然と立ち向かった和氣清麻呂！

猪は退治すべき憎き宿敵であると同時に、神(天地自然)の使者でもある。

現代の科学技術を駆使すれば、共存共栄の道も可能ではないだろうか？

わけのきよまる  
和氣清麻呂公といのしし

奈良時代・称徳天皇の御代のこと。弓削道鏡(ゆげのどうきょう)という僧が法王となって絶大な権力を振っていました。やがて道鏡は、天皇の位も奪おうと考え、「『道鏡を天皇にすれば天下は平和に治まる』と宇佐八幡より神託を受けた清麻呂公を呼び、九州の宇佐八幡へ行って確かめてくるよう命じました。清麻呂公は宇佐八幡へおもむき、ご神前に出て「真意をお教えてください」と呼びました。すると、光り輝く宇佐の大神が現れ、「天皇の後継者には必ず皇族のものを立てなさい。道鏡のような無道の者は早く追放してしまいなさい」とご神託を下されました。

清麻呂公は都へ戻り、大神のご神託を天皇に報告しました。野望をくじかれた道鏡は激しく怒り、清麻呂公の足の腱を切った上、大隅国(鹿児島県)への流罪(るざい)としてしまいます。さらには、大隅国へ向かう清麻呂公を襲わせるために刺客を放ちました。

足の腱を切られ、立つことすらできなくなった清麻呂公ですが、皇室を守った大神に感謝するため、宇佐八幡へ立ち寄ることにしました。そして、一行が豊前国(福岡県東部)に至ると、どこからか三百頭ものいのししが現れました。いのししたちは清麻呂公の輿(こし=乗り物)の周りを囲み、道鏡の刺客たちから守りながら、十里(約40km)の道のりを案内してくれたのです。清麻呂公が宇佐八幡での参拝を終えると、いのししたちはどこかへ去っていきました。不思議なことに、清麻呂公の足の痛みは治り、再び歩けるようになっていました。



その後、称徳天皇の崩御(はつとよ=亡くなること)によって、道鏡は関東へ左遷(さげん)された。清麻呂公は、時の天皇の信頼を得て活躍し、晩年まで世のため人のために尽くしました。

清麻呂公の立派な人柄と、彼を守ったいのししのお話は、後世まで語り継がれることとなりました。清麻呂公を祀る護王神社には、狛犬の代わりに狛イノシシが建てられ、今も清麻呂公を護り続けています。

An aerial photograph of a satellite campus. The campus is situated in a lush, green, hilly area. In the foreground, there is a gravel area with a blue-roofed building and a portable toilet. A white van is parked nearby. In the background, there is a playground with a swing set and a slide. The campus is surrounded by dense greenery and trees.

針道サテライトキャンパス本部

東北文化学園大学附属 農的自然物館（仮称）

エコミュゼ *HARI-michi*

*Heritage of Agricultural Resource Investigation*